

## 国際交流部活動報告「多様性を学ぶ」

「在日クルド人と共に」の温井立央さんを講師にオンライン交流を実施しました。「在日クルド人と共に」は在日クルド人を主として、日本に暮らす外国籍の人々・外国にルーツのある人々の人権を守り、自立して健やかな生活が営めるよう支援を行い、地域住民との相互理解を促進し、誰もが社会の構成員として認められるように、多民族・多文化の社会を作り出すことを目的としています。



### 【振り返り】

★今回の講話で初めてクルド人という存在を知りました。それとともに、日本の外国人差別や、難民制度・入国管理制度の問題についても初めて考える機会となりました。中学生のときに難民制度や入国管理制度については授業の中でサラッと触れたような気もしますが、普段の生活の中では入寮したことでニュースを見ることもほとんどなくなっていたので、頭の中からすっかり抜けきっていたように思います。実際、自分の住んでいる地域では差別や難民問題が気になったことはなく、そこまで身近な話題には感じていませんでした。ですが今回、クルディスタンやその周辺の歴史、現在の日本の制度の問題についても掘り下げることで思っていたよりも事態は深刻なんだと気が付きました。多様性について大きく謳われている現代社会で、一部を除き単一民族社会である日本でも人種や文化の多様化が浸透し、日本人と外国人が共生できる社会が一日でも早く訪れればと強く思います。

★事前にクルド人について調べていた際、なぜ解体業に従事するクルド人が多いのかという疑問がありましたが、教育に関する認識の違いや教育を受けたところで生かすことができないなどの理由が腑に落ちました。日本人は欧米より他の民族との関わりが少ないので、積極的に常識の擦り合わせをしていく必要があると思いました。